

リサイクル促進意見交換会

牛乳パックリサイクル出前授業



関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第33回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2021年2月12日に乳業会館にて、経済産業省素材産業課・資源循環経済課、環境省リサイクル推進室、農林水産省牛乳製品課、自治体関係者、市民団体、古紙回収業者、製紙メーカーなど計59名出席のもと、開催しました。

最初に容環協常務理事の遠藤から、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンライン開催となったが、いろいろな主体の方が一致協力することで、様々な困難も乗り越えられるのではないかと考えているとの挨拶がありました。農水省から、紙を含めた高機能容器を優良事例集として情報発信しており、このような取組を拡充して消費者の皆様に届けていこうと考えているとの挨拶を、経産省から、日頃聞くことができない、いろいろな貴重な意見をいただきたい、環境省から、今後も連絡を取り合っていきたいとの挨拶がありました。

次に取組状況報告として容環協から、組織概要説明と2019年度の回収率の概要説明を行いました。紙パック全体の回収率は目標の50%に対して41.4%となり、残念ながら、3年連続で微減となったこと。最も流通量の多い牛乳、キャップの無いものに限れば、回収率はほぼ50%だろうと推定されること。回収率を底上げするためには、中身飲料では牛乳以外に対して、キャップのある容器について、より強く働きかけていく必要があると推測され、新中期自主行動計画「プラン2025」を策定していることなどの報告を行いました。続いて4つの専門委員会の活動状況を各委員長から報告しました。



容環協からのリモート発信の様子

調査会社からは、2019年度の回収率調査結果の詳細内容として飲料用紙パックの回収率は41.4%であったこと、古紙原料問屋の直接回収や学校給食用紙パックの回収量が減少したこと、市町村回収や集団回収で取引価格が下がっていることなどの説明を行いました。

前半の最後に3つの質問に対して容環協から回答しました。1つ目は注ぎ口付き紙パックが今後増加するかの質問で、市場の要求からも増える傾向にあること、2つ目はまな板への再活用について、WEB調査結果の消費行動から想定以上に使用され、可燃ごみとして廃棄されているのでリサイクル啓発の必要があること、最後は工作などに使われているものは最終可燃ごみになっていないかで、正確に把握できていないが、対策をとっていきたい旨、回答しました。

後半の意見交換では学乳パックのリサイクル状況について話し合いました。回収業者からは、自治体ごとの対応状況の把握に努めるべきとの意見がありました。パルプメーカーからは、エリアにより屋根型、レンガ型の違いがあり、品質を安定させるためには統一することが重要で、高校生による啓発活動や新聞社などメディアによる水平展開も有効とのことでした。また、市民団体からは、市の環境局、容環協と協働での啓発活動について子どもたちに訴えかけて自発的な声を引き出すことが重要で、来年度は出前授業のプログラムに取り入れていきたいとの報告がありました。

コロナ禍でのコミュニケーション、地球環境問題・資源循環への対応が求められる中で紙パック回収に携わるステークホルダー間のコミュニケーションがよりいっそう重要と再認識いたしました。



常務理事挨拶

市民団体や自治体と連携し、
市内全校のリサイクル化を目指し
出前授業に取り組んでいます。

【神奈川県 川崎市立川崎高等学校附属中学校】2021年5月20日

「学乳パックもリサイクルされていると思っていましたが、リサイクルされていない事実を知り、ショックを受けました。」といった感想がありました。

今すぐ学乳パックリサイクルを開始したいという希望はありませんでしたが、なぜリサイクル出来ないのかを学ぶことにより、生徒自らが考え、行動し、より良い結果が導かれていこうと手応えを感じました。

(中学校3年生118名受講)



広い講堂では120名でも密にならない講義が可能

【神奈川県 川崎市立平間小学校】2021年6月15日

近隣の横浜市内の小中学校での学校給食用紙パックのリサイクルの事例や具体的な方法を聞き、児童たちはリサイクルにさらに興味を持った様子でした。

川崎市の家庭から排出される紙パックはリサイクルされている一方、学校給食の紙パックが現在は焼却されている話をきいて、「自分たちもやろう」「まず何をしたらいいですか?」といった声があがりました。

(小学校6年生2クラス69名受講)



密を避けるため2回に分けて実施

出前授業講義内容

- ・講義 「3Rについて」「牛乳パックのリサイクル方法とメリット」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・班ごとのグループワーク
テーマ「どうしたらリサイクルできるようになるか」
- ・質疑応答、他校の事例紹介(ビデオ)

協働実施団体

- ・3R推進プロジェクト(川崎市の市民団体)
- ・グリーンコンシューマグループかわさき(川崎市の市民団体)
- ・川崎市環境局(減量推進課、地球環境推進室)

【神奈川県 川崎市立虹ヶ丘小学校】2021年7月12日

授業の1か月後に担当の先生より「いくつか課題はあるものの、皆で色々話し合いリサイクルや牛乳パックを集める活動をする事にした」との連絡がありました。

今後も容環協の出前授業が「楽しかった」「ためになった」だけで終わることなく、リサイクル活動を実施・強化するきっかけになり、体制構築や水平展開を支援するなどの具体的成果につながる活動になればと思います。

(小学校4年生36名受講)



容環協による講義の様子

【神奈川県 川崎市立西菅(にしずげ)小学校】2021年11月26日

授業の最後の質疑応答では、「脱炭素の意味は?」「再生紙が利用されているトイレペーパーの割合は?」など、積極的な質問が10個以上飛び出しました。

今回の授業は、「環境について考えよう」という課題のもと、児童たちが後日発表する題材の1つでもありましたが、今後も容環協の出前授業が、リサイクルについて自ら考え、実行するきっかけになる活動になればと思います。

(小学校5年生32名受講)



説明を真剣に聞く児童

エコプロ2021/エコスタディールームOnline

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール



国内最大級の環境展に
オンラインも併せて
出展しました。

【エコプロ2021】12月8日～10日

「エコプロ」は、1999年から開催されている国内最大級の環境展示会です。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催となりましたが、今年は再び東京ビッグサイトで開催され出展しました。

東京ビッグサイトの来場者数は、約55,000人、そのうち1,135人が容環協ブースに足を運んでいただきました。ブースでは貴重な資源となる紙パックの原料や構造、リサイクルのルールを学ぶパネル展示と、サンプルによる卓上展示に加え「原紙製造工程と森林管理」「紙パックのライフサイクル」「牛乳パックリサイクル工場見学」等の映像により紙パックに関する環境対応と容環協の活動について情報発信をしました。また、「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」受賞作品を紹介する映像を作成し、ブース内で放映しました。これらの展示を通じ、紙パックのリサイクルへの理解と協力を広く訴える機会となりました。

【エコスタディールームOnline】11月25日～12月17日

エコプロ2021に先行しオンライン展も開催され、容環協は小学生向けの環境学習に特化したブースを集めた「エコスタディールームOnline」に出展しました。児童・生徒に向けて、牛乳パックと環境についてわかりやすくまとめた「牛乳パック探検隊」や、マシンガンズによるリサイクル啓発動画を日替わり配信し「面白くてわかりやすい」と評価を頂きました。また、内容を刷新した「学校給食用牛乳パック リサイクルの手引き」や「容環協の活動紹介動画」、紙パック回収ボックス無料配布の案内を掲載、第21回「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の審査結果速報や2020年度紙パックリサイクル回収率の中間報告も随時配信し、学校

や教育機関、家庭へ向けた紙パックリサイクル啓発コンテンツを充実させました。

大変多くの方にアクセスいただき、アフターコロナを見据えた新しい展示会の形として学びの場を提供することができました。



ソーシャルディスタンスを考慮して出展



4台のモニターによる映像とパネル展示を中心としたブース



エコスタディールームOnlineの画面

長村有由さんの作品
『牛乳パックスケートボード』が
最優秀賞に。

コロナ禍の中、開催が危ぶまれた第21回「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」ですが、今年も無事開催され、全国の小学校より2,338作品の応募がありました。今年はオリンピックやコロナ収束に関連した作品が多く見られました。

いずれも楽しく、力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受



最優秀賞『牛乳パックスケートボード』



優秀賞



優秀賞



全国牛乳容器環境協議会賞



全国小中学校環境教育研究会賞



全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞



日本乳業協会賞

賞作品7点が選ばれました。おめでとうございます。

最優秀賞は岐阜県の小学校6年長村有由さんの作品『牛乳パックスケートボード』でした。2021年ならではの「スポーツ」を題材とした作品で、ボード部分は牛乳パックを紙粘土にして作っていたり、ホイールは42枚も重ねて作っていたりと、手間も時間もかけられたレベルの高い仕上がりを審査委員全員が高く評価しました。

例年エコプロ展の中で行ってきた受賞者の表彰式については、今年はエコプロ2021が平日開催となったため、残念ながら実施できませんでしたが、審査委員長の株式会社教育新聞社・齊藤顧問、実行委員長の容環協・原田会長をはじめ審査委員の方々より受賞者にそれぞれ祝福のビデオレターと賞状・盾・副賞が送られるとともに、一部の学校には出張表彰式を実施させていただきました。また、「エコプロ2021/エコスタディールームOnline展」の中で、審査風景や受賞作品を紹介する動画を公開しました。

受賞作品は容環協の小学生向けホームページ「牛乳パック探検隊」で紹介されています。

〈受賞作品〉

- ◆最優秀賞
『牛乳パックスケートボード』
長村 有由さん(岐阜市立岐阜小学校6年)
- ◆優秀賞 『エコ将棋セット』
西垣 聡恵さん(朝来市立牧田小学校4年)
- ◆優秀賞 『コロナほくめつ!アマビエ様』
中戸川 琉太郎さん(平塚市立富士見小学校5年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『牛にゅうパックで作ったひまわり』
永岡 想乃さん(北九州市立西門司小学校2年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『ルリビタキ』
東原 修司さん(吹田市立古江台小学校6年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
『緑の広場に建つピザの斜塔』
小林 葉子さん(大阪信愛学院小学校4年)
- ◆日本乳業協会賞
『ぎふのオオサンショウウオ』
野村 理蘭さん(岐阜県神戸町立南平野小学校1年)

オンライン意見交換会

紙パックリサイクルの現状と課題について伺いました。

【西日本衛材株式会社】2021年6月29日

【コアレックス信栄株式会社】2021年10月28日

【日本製紙クレシア株式会社】2021年12月2日

例年、静岡県富士市にて製紙メーカーや古紙回収業者を招いて意見交換会を実施していましたが、2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、12月までに3社の製紙メーカーとオンラインでの意見交換会を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大で、家庭で消費する紙パックの入荷量は若干増えたものの、学乳パックの入荷量はかなり減少したとの報告がありました。古紙全体で見ると、近隣国の影響で古紙価格が高くなり、さらに集団回収の減少も相まって、古紙が集まりにくい状況であるとのこと。紙パックリサイクルの主力品であるトイレットペーパーに目を向けると、回収量の減少の影響もあり、バージンパルプ品の割合が増えているとの報告もありました。また、アルミ付き及び注ぎ口付き紙パックについても意見交換を行いました。

意見交換会の最後に容環協への意見・要望を伺いました。「紙パックは上質な紙製品。高品質な家庭紙を製造するためには必要な資源であるため、市民や学校のリサイクル文化が無くならないように働きかけをして欲しい」、「リサイクルしやすい容器の開発を推進してほしい」、「紙パックの回収区分が無い場合、可燃ごみや段ボールと一緒に回収されてしまっている行政に対して働きかけをして欲しい」など多くの忌憚のない意見・要望が出ました。

今後も紙パック回収量アップを目的としてステークホルダーとの対話を積極的に行い、今後のリサイクル活動に反映したいと考えています。



コアレックス信栄株とのオンライン意見交換会

資源循環アイデアの創出を目的として、対話型オンラインセッションを開催しました。

【エシカルな「容器包装との付き合い方」とは？

～つくる側、つかう側の新しい共創の形～】2021年8月26日

「事業者とつくる、エシカルな容器の未来」オンラインセッションを一般市民や学生を含め、約40名参加のもとで開催しました。

SDGs 12「つくる責任、つかう責任」に掲げられるように、環境問題への意識の高まりに合わせ、エシカル消費という言葉も一般的になっています。

環境問題に関わる取組みを進めている容環協は、容器包装とのエシカルな付き合い方について、容器包装の利点を生かしながら環境負荷を低減させる資源循環アイデアを多様な人たちと交流し、対話を通じて生み出し、一つでも多く実現していきたいと考え、本セッションを企画しました。

今まで容環協とパイプが弱かった環境意識の高い一般の方、リサイクル活動を実践しているサステナブルに関心ある市民・学生などが参加し、「紙パック以外にも間口を広げた、エシカルな容器イベントの開催」「パッケージを活用した情報発信、デジタル技術の活用」などさまざまな気づきを得ました。

今後も回収率向上活動につなげるためには、環境意識の高いコミュニティとの対話の場を定期的に開催し関係性を構築するとともに、既に環境系で活動しているZ世代の多いコミュニティへのアプローチを増やすことも必要だと捉えています。市民共創による紙パック回収率向上のためのアクションを実践していきます。



事業者とつくるエシカルな容器の未来

その他の活動

学校の先生や栄養士の皆様に情報提供しました。

【東京都荒川区教育研究会 給食・食育部研修会】

2021年8月25日

給食・食育部は荒川区内外小中学校の先生方や栄養士約20名で構成されています。今年度から本格的に学乳パックのリサイクルを開始しましたが、いざやってみると不明点や不安な点が多く学校の先生から出たため、容環協への研修依頼となりました。コロナ禍のため、会場の荒川区立原中学校の先生方数名以外はリモートでの参加でした。

講義後の挨拶で「我々教師がきちんと理解することが大事。子どもたちの実態に応じて今日学んだことを伝えていかなければいけない。我々自身も実践を重ねていく必要があると強く感じた」という給食・食育部長の力強い言葉をいただきました。



関係者以外はリモート参加

市民団体、自治体と協働で啓発活動に取り組みました。

【かわさき市民アカデミー】2021年10月28日

川崎市民の生涯教育のための「かわさき市民アカデミー」において、学乳パックリサイクルに関する講義を行いました。講師は、川崎市の2つの市民団体と川崎市環境局と容環協で協働して務めました(P.5の協働実施団体を参照)。

川崎市では中断していた学乳パックのリサイクルが最近に

なって市民団体の出前授業を契機に小学校でのリサイクルの取組みが始まりました。

学校でのリサイクルの取組み状況、リサイクルの意義、川崎市のごみの状況等多岐にわたる講義が行われ、情報の共有と知識を深めることができました。



容環協スタッフによる講演

ごみ袋を用いた啓発活動に取り組みました。

【市町村のごみ袋へ広告掲載】

2019年から3年連続で、三鷹市のごみ袋外装のMサイズ(20L)とSサイズ(10L)に牛乳パックを用いて「紙パックは捨てずにリサイクル」、「古紙回収または、スーパーなどの回収ボックスへ」のメッセージを印刷し、三鷹市のホームページに容環協ホームページへご案内するバナー広告を5か月間掲載していただきました。

また、2021年12月より新たに八王子市のごみ袋外装にも広告が採用され、より多くの市民の皆様に容環協とともに紙パックリサイクル活動の内容・基本知識をお知らせしています。



三鷹市ごみ袋

八王子市ごみ袋